

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 2 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530520

研究課題名（和文） 社会復帰を促進するネットワーク生成モデルの構築

研究課題名（英文） Construction of an Effective Social Support Network Improving Social Adaptation

研究代表者

大下 由美（OSHITA YUMI）

県立広島大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：00382367

研究分野：ヒューマンサービス論

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：保健、医療、介護福祉、ネットワーク、社会復帰

1. 研究計画の概要

（1）研究目的：本研究の目的は、社会復帰に課題を抱えるクライアントへのソーシャルワークモデルの構築を試みることである。まず、サポート・ネットワークの概念を社会構成主義的な視点から定義しなおす。その上で、サポート・ネットワークを生成する技法とその効果の測定法を体系化した、臨床実践に有効であり、かつその効果の検証に耐えうるネットワーク生成モデルの構築が目指される。

（2）研究計画：この研究は、理論的研究、実践的研究の2本立てで、以下のような計画で進められる。平成20年度は、理論的研究を中心に行う。すなわち、ネットワーク概念の生成論的構成と、問題パターンの評定法および変容技法の定式化の研究を試みる。平成21年度、22年度は、それら臨床理論に依拠して実践研究を中心に行う。特に平成22年度は、平成21年度の実践過程の研究成果から、ネットワークの変容手順の体系化を試みる。平成23年度は、前年度までの研究成果を踏まえ、本研究の目的である、基礎理論と臨床的技術的理論から構成される新たなネットワーク生成モデルを体系化する。

2. 研究の進捗状況

（1）基礎的臨床理論研究の成果

まず、「社会」を対人間のコミュニケーション・ネットワークの構造と過程から分析する視座を提示した。この視座に基づき、「社会復帰」を、対人間のコミュニケーション・ネットワーク内での新たなトランズアクションとその規則の生成として捉えた。このコミュニケーション・ネットワークは、マイクロ、

メゾ、マクロレベルより、重層的に定義された。マイクロレベルのシステムは、2者間のコミュニケーション過程の主体たちの行為選択と意味構成の力学によって生成するシステムである。あるマイクロレベルのシステムの力学は、他のマイクロレベルのシステムの力学と相乗的に作用し、各々のシステム間では、生成力学は安定化し、構造化される。つまり、メゾレベルのシステムが生成する。さらに複数のシステム間でトランズアクションが生成することで、マクロレベルのネットワーク・システムが構造化される。つまり、本研究のネットワーク生成モデルは、サポート・ネットワークが、マイクロレベルからマクロレベルまでの重層的なシステムの循環力学の中で生成されることを理論化したモデルである。

この理論枠を提示したことで、以下のネットワーク変容論が提示可能となった。マクロレベルで評定されるネットワークの機能不全（社会復帰が困難）の事態は、マイクロレベルで生成される悪循環の規則群の変容によって可能となる。このマイクロレベルで生成される悪循環の規則群は、シークエンスの出来事の要素群（意味構成および行為選択）の差異化あるいは、要素群全体の差異化から、変容されることを示した。

（2）実践理論研究の成果

①技法選択の体系化

上記で論じたように、マイクロレベルの要素群のネットワークは、その出来事定義の変容または、一つの要素の差異化により、変容が可能である。この変容を可能にする、ネットワーク変容技法の体系化が試みられた。ネットワークのマイクロレベルの要素群の変容技

法としては、循環的質問法を中心に、ミクロレベルの出来事全体を変化させる技法としては、解決志向の諸技法を中心に、その両技法の体系化が図られた。

②変容手順の定式化

体系化された技法群を用いた実践が試みられ、そこより、Circular Questions Model、Solution Focused Skills Model、Positive Reframing Model 1、Positive Reframing Model 2、Paradoxical Model、という5つの実践モデルが類型化された。

(3) 効果測定法の実施成果

①効果測定法の体系化

変容場面のシーケンスの要素を、Bales, R の相互作用過程分析のカテゴリーを用いてカテゴリー化し、カテゴリー化されたデータを3次元にグラフ化することで、その力動性の変容を測定する測定の枠組みが定式化された。この測定法の簡易プログラムソフトが作成された。

②効果測定法の検証作業

この測定法を用い事例の評定を試み、ネットワークの生成力学の変容の測定力が考察された。その結果を踏まえ、プログラムソフトの改定を行い、シーケンスの要素群の変容力学の実証的効果測定法の簡易化を図った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

上記で示したように、臨床実践効果の検証に耐えうるネットワーク生成モデルの構築に向けて、理論的技法的および効果測定法の体系化が進展しているため。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、これまでの基礎理論、臨床的、技術的理論の体系の有効性を、事例研究の方法で検証する作業と、その結果に基づいて、本研究でのネットワーク生成モデルの理論枠の修正、洗練化を目指す。

(1) 臨床実践研究の方向性

①技法使用および変容手順の洗練化

変容過程を、問題場面の記述過程とその場をリフレクションする過程に細分化し、各過程で使用する技法群の体系化と、その使用手順の洗練化を図る。

②事例数の増大

ネットワーク生成モデルに基づくネットワーク療法の実施範囲を、現在の医療領域から、保健、介護の領域へと拡大し、変容技法の使用法および手順の一般化を目指す。ただし、この作業は、本研究課題期間を超えた研究期間を必要とする。

(2) 効果測定法の研究の方向性

①測定法手順の洗練化

本モデルの有用性の検証作業は、この効果測定法の進展とかわる。そこで、測定要素を収集するトラッキング技法の使用法、およびその技法を用いて収集した、問題場面および変容場面のローデータ（シーケンスの要素群）の厳密なカテゴリー化の方法を明確化する。

②検証事例数の増大

本モデルの適用範囲を拡大して行われた実践事例の効果測定を試み、ネットワーク生成モデルの有用性について検証する。この作業は、本研究課題の研究期間に加え、さらに複数年の研究期間を設定する必要がある。

(3) 臨床実践理論研究の方向性

臨床実践理論研究は、本モデルの適用範囲を拡大して、臨床事例を増やし、変容技法の使用の手順を明らかにしつつ、他方では、測定のための厳密なカテゴリー化の手順を明確にする研究を進める中で、社会復帰を促進するネットワーク生成モデルの理論枠組みを再吟味する方法で進められる。その上で、基礎理論、臨床的技術的理論および効果測定法から構成される、新たなネットワーク生成モデルの体系化が試みられる。これらの研究成果は、出版の形で公開する計画である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

Yumi Ohshita、Clinical Social Work Practice with HIV/AIDS Patients、The Journal of AIDS Research、査読有、Vol. 12、No. 2、2010年、119-123頁

[学会発表] (計3件)

① Yumi Ohshita、Clinical Social Work Practice with HIV/AIDS Patient、XVIII International AIDS Conference、2010年7月18-23日、Vienna、Austria

② 大下由美、加茂陽、問題の評定法と介入・測定法、日本家族心理学会第26回大会、2009年8月21-23日、大阪市

③ 大下由美、加茂陽、家族療法における治療的変容過程の数量化、日本家族心理学会第25回大会、2008年8月23-24日、仙台市

[図書] (計2件)

① 大下由美、サポート・ネットワークの臨床論、世界思想社、2010年、172頁

② 加茂陽、中谷隆編著、ヒューマンサービス調査法を学ぶ人のために、世界思想社、2008年、348頁